

地域と世界に生きる大学

地域社会における知の創造と発展のために

開催趣旨

近年の人口動態と経済環境の激変を背景として、地域社会における大学の役割をめぐる議論や政策動向が加速度的に進んでいます。すでに平成30年6月に「地域における大学の振興及び若者の雇用機会の創出による若者の修学及び就業の促進に関する法律」が制定されたのをはじめとして、旧来の国公立大学の枠を超えて、「撤退」「廃止」なども含めた大規模な再編のための政策提言が進み、実行段階に入りつつあるものもあります。これは過去四半世紀にわたって続いてきた「大学改革」の波状連鎖の中でも、新たな段階の到来を告げるもののように思われます。

日本各地の大学は、それぞれの地域の特色や課題に応じた研究教育および社会貢献の努力を重ねつつ、それを世界の学術コミュニティに接続する試みに挑戦してきました。「人文・社会科学の役割とその振興に関する分科会」で紹介された事例では、震災など危機的状況のもとで歴史記憶の復旧と保存を通じて地域社会の再建に取り組む研究機関が、同時に世界的な学術ネットワークの中でも有意な貢献を果たしてきたことが示されています。地域社会で大学と学術が果たしうる役割と、グローバルな知の空間における貢献はさまざまな形でつながり、一体的であることが強調されました。もとより同様のことは、人文・社会科学に限らず自然科学や技術系の学問など学術全般で確認されてきたことでもあります。地域への貢献とグローバルな展開は峻別可能ではなく、相互の浸透を通じて社会と学問を豊かにすることが目指されてきました。

現在急速に進められようとしている大学再編のなかで、地域社会に生きる大学と学術の役割がどのように変わろうとしているのか、これまで培ってきた経験を継承し発展させる道をどのように切り開くことができるのか、こうしたことが鋭く問われています。このシンポジウムでは、地域社会で大学の置かれた状況を直視しつつ、多様な経験の交流を通じて、各地域の具体的な動きの中で必ず踏まえられるべき大学と学術の役割にかかわる視点を確認することを目指します。

日時

平成31年2月3日（日）

13:30-17:00

場所

日本学術会議講堂

東京都港区六本木 7-22-34

東京メトロ千代田線 乃木坂駅 5 番出口



主催：日本学術会議第一部人文・社会科学の役割とその振興に関する分科会
日本学術会議科学者委員会学術と教育分科会

共催：日本学術振興会課題設定による先導的人文学・社会科学推進事業（グローバル展開プログラム）
「人文・社会科学教育の内容と方法のイノベーションに関する国際比較研究」

次第

●総合司会：平井 みどり（日本学術会議第二部会員、兵庫県赤十字血液センター所長）

13:30 開会挨拶：佐藤 岩夫（日本学術会議第一部会員、第一部長、
東京大学社会科学研究所長、教授）

13:35 趣旨説明：橋本 伸也（日本学術会議第一部会員、関西学院大学文学部教授）

報告（各20分）

13:45 報告① 「「地方」における大学をめぐる動態分析」
白川 優治（千葉大学国際教養学部准教授）

14:05 報告② 「地域社会における人文学の還流」
山田 健三（信州大学人文学部学部長、教授）

**14:25 報告③ 「「混ぜる」で輝くまち・ひと・しごと
：地方私立大学の経験から」**
牧田 正裕（立命館アジア太平洋大学国際経営学部教授）

14:45 報告④ 「小規模な地方公立大学の経験から」
井口 和起（福知山公立大学学長）

15:05 報告⑤ 「地方紙から見る「人文学の挑戦」」
道面 雅量（中国新聞編集局文化部記者）

15:25 休憩

15:40 パネル・ディスカッション

司会：広田 照幸（日本学術会議連携会員、日本大学文理学部教授）

パネリスト

報告者全員

吉田 文（日本学術会議連携会員、早稲田大学教育・総合科学学術院教授）

山本 健慈（前和歌山大学学長、国立大学協会専務理事）

16:55 閉会挨拶：小山田 耕二（日本学術会議第三部会員、
京都大学学術情報メディアセンター教授）

お問い合わせ先

関西学院大学文学部 橋本伸也（[hashin\[at\]kwansei.ac.jp](mailto:hashin[at]kwansei.ac.jp)）

※[at]は@に置き換えて下さい